平成 23 年 2 月 16 日

総合商社から都立杉並総合高等学校へ

東京都立杉並総合高等学校
校長　三　橋　信　也

都立杉並総合 高等学校 （学校の様子）	2004 年開校の総合学科 生徒数 720 名　3 学年 18 クラス 都立高校の中位レベル 大学進学率 45%、就職 1% 平均家庭学習 15 分未満 40% まじめにノートを取る生徒　20% 私語、居眠りが多い（授業による） 教室を汚す、ごみをゴミ箱に捨てない。 推薦で大学進学する生徒が殆ど。	（就任時の印象） 学習しない。学習意欲希薄。 家庭学習なし、教科書を持ち帰らない。 自分の将来、就職を真剣に考えていない、不安に思わない。 家庭での躾が出来ていない。 大学進学の目的がいい加減。
学校経営目標	①　中間レベルの学力の高校としての位置づけ ②進学実績 ③キャリア教育と専門化 ④海外で学び働く意欲を持たせる国際理解教育 求められるインフラ： ①キャリア教育 ②国際理解教育	①生徒の学力レベルに即した進路目標を立てる。 ②進学実績を重視する保護者 ③進路意識を持たせる指導(キャリア教育)の必要性 ④多くの進路での国際化対応 ①学校任せでない機会の提供 ②国際理解という科目の設置 教員の留学制度拡充と海外経験者の活用（採用）

（補足）

1.教員の授業力：生徒が熱心に聞く授業もある。学ぶ意欲を喚起することは出来る。

2.キャリア教育：社会や一般企業から求められているものが何かを教職しか知らない教員が指導するのは無理がある。（民間からの教員採用に意味がある理由。）
インターンシップはキャリア教育として有効であるが、教員負担が大きい、質が保証されない。職業体験できる制度、施設の整備が求められる。

3.国際理解教育：如何なる職業分野でも海外で働くという意識が持たせることが必要。生徒が海外に興味を持つような指導は出来ていない。教える側が国際化しておらず国際理解教育は無理がある。教員の国際理解教育とともに、海外経験者を教員に採用する制度の整備が望ましい。「学校設定教科：国際理解教育」へのサポート、「特別非常勤講師制度」「特別免許状制度」の充実、海外での職業体験で得られる教員資格の設置（例：OVTA 国際アドバイザーの発展型）

以上